

趣味ニ味

●特集2／醍醐味を探る／1

おだやかな
表情に魅せられて

土井 芳子／神戸市婦人団体協議会々長

敗戦直後の物資窮乏時代、配給品だけではとても生きて行けず、タケノコ生活、売り食い生活が始まった。土井さんも多分にもれず、骨董品、衣類、箸など生活費と子供たちの学資のため、とにかく

く売れるものは何でも売った。社会が少し落ち着いた頃から今度は蒐集が始まった。それは全国各地の人形、民芸品、仏像、壺などであった。「お金に困ったときは自分や子供や孫が売り食いできて当

座のしのぎができるだろう」との気持ちからだった。

土井さん
といえば、
人形の蒐集
家として知
る人ぞ知る

だが、約一
万点の人形
や民芸品は
今神戸市に
寄贈され、
婦人会館五
階に陳列さ
れている。

さて、通
された自宅

九口の観音像を手にニコニコと話す土井さん

の応接室の壁面の飾り棚には大は三十センチから小は小指の先ぐらいの仏像などが約三百点ある。
「おだやかな顔でしょう」といわれて、しみじみと眺めると、なるほど、中国の観音は少し目がつり上がり、朝鮮のそれはいささか胴が細く、日本のそれはふくよかという違いはあるが、土井さんのようにおだやかな顔立ちだ。

「仏像の魅力は顔ですね。おだやかで崇高で、じっと見ているとこつちまでおだやかになるでしょう。疲れたときでも、あれはいつ買ったのか、誰に買ったのかと思いつきながら見ていると楽しい」
仏像は男でも女でもない。男女それぞれの良いところを合体したもの。それだけ、この世のものではない気品と美しさがある。「美しいものなら何でも集めます」という土井さんは「美」の蒐集家。手もとにある仏像は必ずしも土井さんが買ったものばかりではない。家にあったもの、戦死したご主人が中国からもち帰ったものもある。特に後者には九口(中国の瀬戸物の町)の観音像など、土井さんが最も愛している仏像がある。「よい政治がなされたところにはよい玩具がある」とは土井さんの持論だが、よい人形、よい仏像を求める土井さんの旅はまだまだ終わらない。



趣味ニ味

●特集2／醍醐味を探る／2 60にして宝塚歌劇 と出逢った良き人生

橋本 武／灘高等学校教諭

東大合格率一位で全国に名を馳せるかの灘高等学校の先生ときらびやかな女の團、宝塚歌劇団の舞台はどうもイメージとして結びつきにくいかもしれない。が、本山の青蛙人形館（郷土人形の集収家としても有名）こと橋本邸の書斎

でお話を伺っていると橋本先生の宝塚歌劇に対する傾倒ぶりに圧倒されんばかりとなる。

そもそも昭和5年頃には東京で松竹少女歌劇を観ていたが、40年経って還暦を迎えた年のある夕方偶然テレビで「ザ・タカラヅカ」

を観て青春

時代に連れ戻された気分になった

のがきっかけ。けれど

その時にはこれほど

「宝塚熱」

が高くなる

とは思って

もいなかっ

た。5年前

に初めて舞

台を観、一

応の満足感

はあったが

心に響かな

かった。そ

れで先生と

橋本先生ご夫妻とおばあちゃんをとり囲むタカラヅカの団員とファンの人々（橋本邸にて）

しては時間の余裕がある学校の期末テスト中に1週間連続で宝塚の舞台へ足を運んでみた。すると、どうだろう、初めてよりは2回目より3回目と、どんなに観ても飽きることはない奥深い良さを発見し、のめり込んでしまひ今日に至る——といった次第。「音楽学校で2年間、厳しいしついで根性を叩き直すんですね。自我が洗いやされ、その中から個性が磨かれるんですね。氣立ても良く、礼儀正しく、内かななる美しさで顔が輝いているんです」と礼讃。授業でも講演会でも宝塚のことをよく話題にされるそう。

舞台は平均月10回は観に行く。スターの鳳蘭から音楽学校の生徒にいたるまでタカラヅカでも先生は有名だ。夫婦共通の趣味なのでカメラ片手に宝塚へ行き、団員と一緒に写真を撮るのが又楽しい。

著作『おお／＼タカラヅカ』はPART IIまで発刊され、全国のツカファンから橋本先生宛に山のようなファンレターが寄せられている。子供のいない橋本ご夫妻にとってはタカラヅカを通じて知り合った多勢の生徒やファン達は我が子のようにいとおしい。

「宝塚歌劇を知ってこんなにも楽しい老齡人生を送れて幸せです。人生は60から始まる、ですよ！」



趣味ニ味

●特集2／醍醐味を探る／3

七十になつたら 孫連れサンバね

若間 弘子〈神戸エイボンプロダクト
地区マネージャー〉

「七年? もう七年目? スバ
シネエ」

(と自分でもびっくり、感心して
いる若間弘子さんは、中年ほど張
り切り、出席率もいいという、神
戸っ子サンバチームのほぼ初期時
代からの優秀なメンバー。手づく
りの衣裳で、いつも子連れで参加)
「あの娘が幼稚園のときからでし
よ、いまもう六年生だものねえ」
仕事をほっぽり出して飛んで
いくほどにどうしてそんなにサン

バがお好き?

「リズム、ね。サンバに限らずリ
ズムってものがものすごい、好き。
これは生まれつきじゃないの。大
体、父が船に乗って室内音楽のド
ラムとピアノをやってたというジ
ヤズ畑の人だったでしょ。当時日
本で二台目というRCAの電蓄
(なつかしいコトバ)がウチにあ
った。母もモダンガールで相当踊
り回っていた人。私もジャズが大
好き。それにサンバがなかったら

私、いっぺんに年とるわ。

——それじゃあ若間さんが若くて
美しいのは、毎年神戸まつりでサ
ンバを踊りまくるせい? (だって
とても、来年、大学と高校と中学
受験の二男一女の母とは思えぬ若
さ)

「サンバやるためには若くなかつ
たら困るやん。毎日ダラダラ暮ら
してるとお腹も出てくるし、お尻
も出てくるから、ふだんから多少
ともね、努力はしますよ。五月の
神戸まつりにそなえていつも二月
になると準備運動を始めるの。狭
いわが家で、冷蔵庫につかまって
ウンコラショツと柔軟体操(笑)
ほんの十分くらい。毎晩みんなが
寝静まってからね」

「衣裳きて、お化粧して踊ってる
ときは、もう若間弘子という名前
もボイと捨て、『主婦』もボイと捨
て、サンバの踊り子になって、い
いねえ」(とまたまた自分で感心)
——もちろんこれからもずっと?
「やるやる(と勢いこんで)やり
たいねえ。サンバ踊っててね、あ
あ私はまだここまで踊れると思
うと、ほかのこともまだやれる
って勇気づくの。きつとおばあ
ちゃんになってもやってるでしょ
うね。どこかでそのうちいつか、七
十いくつのおばあちゃんがサンバ
踊ってるよ、てなことになるんじ
やないかな(笑)」



今年の神戸まつりでパレード前に集合した神戸っ子サンバチーム。
前列左2人が美貌と可憐さで名高い若間さん母娘。

趣味ニ味

●特集2／醍醐味を採る／4

バンジョー片手 リズムをきざんで

大森 重志／サントリー株式会社デザイン室長

神戸が日本のジャズの発祥地であることは周知の話。現在もデキシやスイング、トラディショナルなジャズが日本で一番盛んな土地で、ことデキシに関しては、本場アメリカ・ニューオリンズよりも活況を呈しているのが神戸

の街。そして神戸のデキシの演奏者というのは、ほとんどがアマチュアなのである。しかもプロ顔負けの演奏を披露するからタイヘン。

そんな仲間のひとりが大森重志さん。「趣味があると、仕事にツ

ヤがでるとちやうかな」と話す

“デキシランド”でピアノの中川さんと息の合った演奏を楽しむ大森さん

大森さん、本職はサントリーのデザイン室長さん。あの「サントリー50」やビールの「メルツェン」、そして新製品の「樹氷」とか、サントリー製品のボトルやラベルやマークやロゴタイプそし

てダンボール箱にいたるまで、すべてのアートディレクションが本業。この人がバンジョーを弾く。

大森さん、バンジョー奏者たちのグループ「アンカーズ・バンジョーバンド」が主なるレギュラーグループだが、もちろんいろんなグループに仲間入りする。あくまで趣味で演っているバンジョーだけど、プロの演奏者と一緒に楽しんだり、外人演奏者が来日したりすると一緒にプレイしたり、またデキシのコンサートがあると必ずといっていいほど顔を出している売れっ子。初めてバンジョーを手にしたのは京都美大時代で、昭和三十五年頃。その時はバンジョーってどんなものか全く知らず、手さぐりでコードの押え方を研究したり独学で練習。プロの手ほどきがあったりしてグングン上達。以来十八年間、まさに音楽は世界共通のことは、音楽を通じての人の交友が大森さんの生活に大きな意義をもっている。

バンジョーは、リズムをきざんで他の演奏者を乗せていく、リズム楽器。

「八お前のバンジョーがバックでリズムをきざんでと吹きやさいぜ」っていわれるような演奏が理想なんです」と話す大森さん。いえ、みんななかなか乗って演っていますよ。



趣味ニ味

●特集2／醍醐味を探る／5▼
春になると
まるで蝶の館

武衛 晴雄／神戸市々民局々長▼

静かな住宅街にある武衛家に訪れた時出てくれたのは、ケンちゃんという九才のワン公。「お客様にご挨拶しなさい」とケンちゃんのうしろから現われた順子夫人は、本当の子供を諭すように仰っしゃった。

「蝶を集め始めたのは、中学時代の国語の先生の影響なんですよ」上松杜暢さんの「蝶」という色紙の飾ってある武衛家の応接室。見ると暖簾も時計も壁かけも、何と全部蝶々である。「最近はコレクションをするより蝶を育てる方に

熱中してるんですよ」

それでも標本箱の中には、神戸周辺では決してお目にかかることのないキラシマミドリチョウ（別名蝶の宝石だそう。何とロマンティックな名前。名前通りの美女？な蝶）等珍種がいっぱい。

「蝶も減りましたよ」そりや乱獲のせいじゃありませんかと、少し意地悪く考えていると「コレクションで集めるなんて自然に影響ないんですな。悪いのは乱開発ということですよ。実際自然界はうまく出来ていて、異常発生しても必ず餌不足で死んでしまう。自然循環というのでしょかね。ほうっておけば自然はうまく治まっている。人が意味もないのに殺すのが一番悪いんです」と語気を強めていわれた。

お次にその飼育現場を拝見。蝶という小学校の記憶からすぐキヤベツの葉裏の青虫を思い出すのだが、榎、ホトトギス、山椒、寒葵、みかん、と種類によって卵を産む木の好みがあるそうだ。近くにない木は遠く上郡まで採りに行って庭に移植する。榎が好きなおムラサキは今はさなぎ。葉の色が枯れるにつれ保護色で色を変えながら冬を越し、六月に蝶になる。あまり可愛いとは思えないさなぎを、目を細めて愛でておられる武衛さん最愛の愛蝶の一種のようだ。

春になるとおムラサキ、ギフチョウ、ゴマダラチョウと武衛家の周囲は胡蝶の乱舞。その頃にもう一度と思いつつ失礼した時もケンちゃんのお見送り。命ある物すべてに優しい武衛ご夫妻だった。

オームラサキの幼虫は、今は榎の葉裏でお眠り



趣味ニ味

●特集2／醍醐味を探る／6V

菊は我が子のよう 「可愛いネ」

朱 相奎／「北京樓」代表者V

十一月二日、相楽園で第二十七回神戸菊花展の審査が行なわれ、総合花壇の部で朱相奎さんは建設大臣賞を受賞。間口七二〇cm、奥行き二七〇cmの空間に小菊の懸崖づくりを主体に丹精込めた菊花群。秋を彩る見事な芸術品だ。

菊づくりを始めて二十七年になる。当時病弱で健康のためにと神戸市フラワースセンターから菊の苗を十本程もらったのがきっかけ。昔から土いじりが大好きで早速自

宅の庭に植えて栽培しているうちに菊の魅力にとりつかれてしまった。自宅の庭では我慢できなくなり、十年前、中山手に約四十七坪の土地を購入、今秋二五〇本余りが朱さんの手で薫香を放った。

毎朝五時起床、北野町不動明王神社にお参りし、六時から九時まで栽培所で菊の手入れをするのが日課で仕事中でも少しの暇があれば何度も見に行き、我が子のような可愛がりよう。蕾のときが一番

「可愛いネ」と目を細める。菊づくりを始めて一度も病気をしなかった菊はカラッとしたひなたの環境を好むため六月、七月の梅雨時は悩みの種。水には充分気を配っているがひどい雨だと菊に傘をさす。一番の大敵はナメクジ。市販の薬剤では完全に退治できず、独自の方法を考えた。菊のまわりにスイカやメロンの皮を置き、夜八時頃懐中電灯を片手にそつと覗くとイルワイルワ。それをハサミで一匹ずつ切っていく。

こうすれば完全に退治できる。一晩に四〇匹もとれたことがあるとか。梅雨時の二か月間、毎晩ナメクジと格闘するのは大変なこと。だが「夜中にナメクジが体のまわりをゴソゴソしたら菊だって睡眠不足になるからね」と本人。

朱さんは日本語が不自由なので薬剤の調合など栽培の知識を自身のカンで体得するに至るまで非常に苦労した。懸崖菊の杉づくり、大菊の千輪づくりは神戸で最初に手がけ、専門のフラワースセンターが習いにきたぐらい。菊花展入賞も醍醐味のひとつ。審査の日にみごろに咲かせるため工夫を凝らす。神戸菊花展で内閣総理大臣賞を二度、全日本菊花コンクールで日本菊花協会賞を、その他多数賞を得ている。「秘訣は？」と尋ねると「それはヒミツ」らしい。



手塩にかけた「千輪づくり」に目を細める朱さん。

オリエンタル レディスクラブ

会 員 募 集 中



年会費：お一人 5,000円

割 引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：随時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内
☎(078)331-8111

MAKE UP WITH ROYAL

行動派の……

CARRERA
PORSCHE DESIGN



ポルシェがファッション、合理性に
富んだサングラスをデザイン。
レンズは簡単に取りはずしができます。

スベアレンズ付 ¥15,000

 **神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです
三宮店は第2、3水曜日がお休みです

趣味ニ味

わたしの趣味ニ味

アンケート質問①あなたの人生の伴侶としての趣味は何ですか。②始められた動機と始められたのは何時ですか。③趣味として継続されて何年になりますか。④趣味についての失敗談やエピソードがありますか。⑤あなたの趣味についての心情はどうですか。⑥趣味と人生について、あるいは座右銘があれば。

細川 董 入哲学者

- ① 絵、哲学、創作、オーディオ、車、熱帯魚、美食。
② 好きだから。
③ 40年

④ 趣味以外僕の人生には何も無い好きなことをしているのだから何をしてもし敗れと思わない。

⑤ 七度人間に生れても趣味に生き趣味に死す。

⑥ 自分の趣味に他人を期待するな趣味のみで生きられる人間でなければ本当の人間ではない。

村上 和子 入TVディレクター



- ① a 古い b 少しでも遠くに行くこと c 絵

② a 中国文学・易学を大学で専攻 b 大学2年頃。それ迄は過保護で神戸から出して貰えなかったその反動 c おだてられて

④ a 新幹線に乗って神戸の古本屋に易いの本を買ひあさりに行つた b 学生時代は旅をしての外泊数が1年に50泊ぐらいだった今でも歯医者さんは高松まで船

に乗って通っている(バカノ)

c 小学校―天才的。中学校―入選いっぱい。高校―絵描きになるつもり。大学―人を見るだけ。社会人―手も足も出さない。

⑤ a 色々な人との出逢いがより楽しいものに。 b 自分の運動しない乗り物に乗ってボートと外の景色を見る気楽さ。 c モダンパバアになってもやるつもり。

⑥ 人生、メシ喰って生きているだけでもムダなこと。それじゃ思い切りムダの多い人生をと思っている。心のなすままにやっているのが趣味っていうのかナア。自己の開放。

瀬戸裕吉郎 入商店

① 乗馬

② 健康のため

③ 22年

④ 20年続けてはじめてその健康への成果が表われているようです

⑤ 一つのことを死ぬまで続ける。全ては愛です。

⑥ 心清く格調高いこと。

砂田 重民 入文部大臣

① 音楽鑑賞

② いつの間にか耳に入ってきた

③ 中学1年生

赤根 和生 入美術評論家



① 園芸と第8芸術(バイブ・スモーク・キング・時

には煙管)

② 好きだから。人間も好きだが時々煩わしくなる。人間を離れ無心になれる。終戦直後の死生乱脈をきわめた頃から。

③ 30年余。

④ 最近パイプに先哲ソクラテスの風貌を彫りあげた。妻とのケンカ後は書齋にひきこもりこのパイプをくゆらすと気持ちが静まる。

⑤ ドイツ旅行での断煙が因となって4年半煙草を断って「止められる」自信のついた今は、「止める」娛しみを老後に残しておくために、せつせと喫煙道に励んでいる。曰く「紫煙と思惟のうちに人生の時は刻む」

⑥ 最後の勝利を信じてわれわれは静かにそしてつねにもっともつ

と一歩ずつ前進してゆかねばならない（ビート・モンドリアン）

諸岡 博熊（公務員）



①生活雑学

②梅棹忠夫先生に触発されて。

④厚顔にも専門家を前にしてウソ

ばかり喋って赤恥をかいた。

⑤知識に貪欲であることは、新たな発見があつて、それを生活に

応用するための知的な、肉体的

な冒険と充実が楽しい。

⑥女、まさに情報源である。

牛尾 吉朗（会社役員）

①印象派を中心とした洋画蒐集。

②大学時代より。死んだ親父の日

本趣味に対抗して絵を見るよう

になった。

④ここ10年程で天文学的に高騰し

入手が頗る困難になったため、

彫刻に転身しつつある。

⑤洋画の蒐集は最高の贅沢である

反面、趣味と実益を兼ねることが

が多い。従つて今や物心ともに

一つの支えになっている。

⑥人生で趣味を持つことは心豊か

になるが、趣味で人生を送るのは

哀れである。

望月 美佐（書家）



①水泳、書籍

の収集、酒

②子供の頃は

楽しいから

40才以後は健康のために。

⑤美しいと思つたものは自分の手

で確かめなくては気がすまない

ので広く浅く多趣味。

⑥芸術家にとって一切が美。一切

を美にしなければならぬ。

竹田 洋太郎（会社役員）



①英米のペー

パーバック

の読書。

②戦後古本屋

にG.I.の読み古しのペーパーバ

ックが出た時。最初はアメリカ

のハードボイルド、現在はイギ

リスのスパイ小説。

④「地下鉄ハイジャック」を読ん

でいないのにその著者に会つた

時、正直に「あなたの本を読ん

でない」といえなかった。しか

しその次の作品はハードカバー

でいただきました。

⑤あくまでもエンタテインメントと

してですが、スパイ小説によつ

て国際政治や国際経済の裏がわ

かる利点がある。

⑥うまいものは宵に食べ。

坂井 時忠（知事）

①旅行記を読む、買物散歩。

②暇な時いつでもできる

③30年

④つまらぬ物を買つて家内に叱ら

れます。

⑤going my way

⑥「敬天去私」

新井

満（CFディレクター）



①シネ中とい

われる程の

シネマ狂い

なのです。

②幼稚園時代母につれられて見た

「赤と黒」に登場する人妻役ダ

ニエル・ダリユーの妖艶美に魅

せられて以来のこと。28年前。

④生まれてから今日までに見たシ

ネマの全記録があります。今年

度は11月20日現在で113本目。映

画見すぎて近視、乱視、斜視に

なつてもうた。

⑤1週間映画館へ行けないと食欲

も減り眼ランランと輝き手足う

ちふるえ、シネマ中毒の症状が

出てきますので、周囲の人々は

注意せねばなりません。私が作

曲家や歌手になれたのも映画音

楽をきき狂つたせいでしょうな

⑥海とシネマと女はよく似ている

溺れぬうちに逃げるや逃げる、

……しかし一生ムリでせうなア

服部 正（大阪社会事業短期大学教授）



①何でも見て

やろう精神

酒もその一

つ。性の問

題では高橋鉄氏と意気投合。

②少年期から。40年前です。

④自慢話めくが、20年以上前宮本

常一氏の土佐の乞食の聞き書き

を見つけ出し本読み調で連続放

送した。今、坂本長利さんが「土佐源氏」をしているが以前に私が開拓したものというわけだ。

⑤趣味が仕事に溶けこんでいる。

ひとり酒が好きですが気の合った友だちとは黙々と飲む雰囲気が一番心情にピッタリです。酒は和洋を問いません。

⑥「私は人生を歳まで飲む」という古代ギリシヤ人の精神。良きエビキュリアンに徹したいというのが私の願いです。

寺崎 忠夫△建設業▽

①カメラ

②建築、インテリアの作品資料を作るため。

③20年

⑤死ぬ迄続きそう。

⑥美しいものを見たい。

鈴木 漢△会社員▽

①詩を作ること

②ことばを少し知りはじめたにきびざかりの頃、ことば自体の持つリズムや組み合わせの中にこそ、人生のすべてがあるのではないかと、錯覚したのでした。

③20年余

④いわば生活とほとんど同義語です。「田を作ること」に対するうしろめたさを、つねに感じています。昨今はしかし、減反政策とかで田を作るのも随分肩身が狭いようです。

⑥遊びをせんとや生れけむ／戯れせんとや生れけん／遊ぶ子供の声きけば／わが身さえこと動がるれ(梁塵秘抄より)

南 和好△画家▽

①趣味ーおもむき、このみ、専門家としてでなく楽しみとしてする事柄(広辞苑) 抱って情情をむさぶる事こそ私の最高の趣味
②気持の上で追いまわされる仕事から離れて情情の中で自らをいとしむ趣きを知って、何年になりますか。

④心地良すぎて溺れるくらいがあります。それも趣き。

⑤まずしい事です。でも私には麻葉のようなものです。

⑥趣きとは、もののあはれを識ることだと思っています。

鴨居 玲△画家▽



①寒い国に住む期間が長かったのでウインター

スポーツが得意でしたが腕足の骨接で最早昔の夢。強いていえば小説を読む、お芝居を観る、散歩。

②初めての土地に行くと毎朝地図は持たずに歩きまわる。街の人情が膚から伝わり面白いものだから散歩中に急救病院の前で足にギブスをはめた青年が、その母親や看護婦さんに囲まれてタクシ

から降りようとして大騒ぎしている場面に出合い、その頃は僕も若かったものですから少々力自慢で、その青年をヒョイと背に負い、熱いまなざしでさわわめている看護婦さんたちの中をグイグイ歩き始めますと、背中の青年が

「あのー僕、退院するところですが……」

山田富沙子△デザイナー▽



①旅行
②生きていることの感動
人生すなわ

ち旅と感じるようになった。

④ヨーロッパは年に仕事をかねて2回ずつ行く。旅で出逢った友だちや思い出、沢山あります。

⑤自分が進歩し洗練されていくような感動を求めて死ぬ迄旅を続けていきます。

山中 秀男△大丸勤務▽

①スプーン集め

②ニューヨークでスプーンコレクターの友人が多数いた。また欧米のどこを旅行してもスプーンの土産品を売っている。

③8年

④欧米では赤ちゃんが生まれるとお祝いとしてスプーンを贈る習慣がある。生涯食いはぐれることないようにと願う。

⑤心の余裕、忘れ得ぬ旅の思い出

民芸品の手工で出来たのも多く
土地の民芸の一端が伺える。

外島 健吉（会社役員）

①歌沢を唄うこと

②会社の大先輩に勧められて

③約20年

④芸事は習い初めちよつと上手になつたと思うと人に聞かせたくなるが、芸の深さがわかつてくると人前で唄えなくなる。

⑤いろいろな趣味を持つことは老年になつても楽しく過ごせる。

⑥趣味は自分の生活を巾広くする
木下佳通代（美術家）



①趣味を人生の伴侶にするものとは考えません

⑤意識が何か或ることに拘束されたり緊張が続いている時に、感情の趣くままに意識を解放して時を過すことが、多分趣味の間だと思ふ。状況によってすることは異なるが、自分の心（意識）の平衡を保つ助けになる。

⑥意識を空間に浮遊させること。

平田 和子（帽子デザイナー）

①帽子作りが趣味だったけど、今はビジネスになつてます。

②女が経済的に独立を目指したのと、帽子は芸術的要素を持っていたこと。

③25年

⑤趣味で終わらないでプロとして

通用するところまでやるべきだと思います。自分に合う物を見つげるためにあれこれするのは良いが、つまみ食い式にするのは感心しない。

⑥人間が一人になって孤独を感じる時、趣味はそれを救ってくれる唯一の物になる。

杉尾友士郎（写真家）

①磯釣り

②海が好きだった

③20年

④1年分の雨水とヘドロの168センチの深みに落ちる。悪臭が4、5日とれなかった。

⑤神経の消化

⑥人生の趣味は仕事

焦 梅華（ハスナック・メイfair）



①ヨガ体操

②肉体美と健康維持のため。

③2年余。

④本場の先生に習っていたのだけれど先生の奥さんが私の美貌？に嫉妬し始めたので2ヶ月で止めてしまふ。私は意欲充分だったのに……。

⑤趣味を媒体にして視野を広めたいし、自分自身の人生において何らかの影響のある人に出会いたい。

⑥いつも精神的にリッチな人生を送りたい。

藤間緑寿郎（邦舞家）



①知香派いけばな盛物。

②内弟子時代
師匠の家に

花をいれるため。8才の時から。

③13年

⑤生け花盛物を通じて四季の移り変わりを知り、私の門弟の方々にも日本のありかたを感じてもらおうと思ひ続けております。

⑥（踊も生け花も）「道は同じ」

鷺尾 卓思（医師）

①パイプ造り

②3年前から

④手指にマメを作りながらみがきあげたのに思わぬところにヒビワレがあらわれたり、いざ葉をつめて火を付けると木がこげてしまつたり失敗は数限りなし。

⑤作成の途中少し手を抜くと出来上りが全くみじめになる。何事も過程を大切に。手を抜くことなくしなないと惨めな結果になる

米花 稔（神戸大学名誉教授）

①謡曲

②大学時代。父の影響。中断してこの2年は相当力を入れている。年を重ねて外から本格的に注意される機会は、ここでの稽古しかないことを感じたから。

③45年とも2、3年ともいえる。

④師匠より厳しく注意を受けることの爽やかさが最近力を入れる

ようになった理由。

- ⑤ 学生時代から何となくやってた謡曲が、最近になって心の中心で一つの役割を持つようになったことの因縁を不思議に思う。
- ⑥ 「知的好奇心」と「謙虚」ということが好きです。

若山 晴洋 ハローズガーデンオーナー



- ① キャンプ、山歩き。
② 子供の時から野山をかけるのが好きだった。

③ 5年程。

④ たまには都会から離れて自然界にとけ込むのも楽しいものだ。

柏木 善平 医師

- ① 旅行（海外旅行、ドライブ旅行クルージング）
② 約20年前より。原則としてできるだけ夫婦同伴で行ってきた。月並みだが複雑な実生活からの息ぬきのため。

③ 約20年

④ 時間に縛られた実生活だから趣味の時間は自由でありたい。できるだけ同じ場所についてハブニングを期待する。旅の楽しみはそれに伴ういろいろな歴史、即ち美術、料理、酒など。酒は世界各国のミニチュア壺を集めてまもなく1000種類になろうとするのを密かな楽しみにしている。

丸 晴彦 ハフォー・シンガー



- ① 紅茶の収集
② 友人からメルローズ社のオレンジ

・ペコを紹介してもらった。

③ 6年

- ④ アメリカで紅茶を注文すると必ずレモンティを持ってくる。ところが輪切りではなく4分の1程の大きさ。カリフォルニアのレモンが余っているせいかな。
- ⑤ 葉の量その他を守っても、まずといって同じ味の紅茶にはならない。それ程デリケートなのだ。茶道にも通じるような気持で接して芸術にまで高めたい。
- ⑥ 趣味のある人は幸福だと思ふ。人生の一刻、安らぎになりまた生き甲斐になる。私の恋人は「赤い貴婦人」。

井上 重義 山陽ニュース編集者

- ① 郷土玩具の収集
② 15年程前に「日本の郷土玩具」という本を読んだから、庶民の文化財ともいえる郷土玩具を後世に伝えなければと思った。
- ④ 郷土玩具を求めて旅をした時、小遣いが失くなり昼夜ラーメン夜行で行って夜行で帰るという旅も、今では楽しい思い出。
- ⑤ 昭和49年に郷土玩具館を建ててからは自分自身の趣味ではなくなった。今では趣味という



伊藤 ルミ ヒアニスト

- ① 占い（主に四柱推命）
② 中学3年。初めての有料コンサートの出来を占って。

③ 14年

④ 幸か不幸かどっちもなし。

⑤ 神秘なものの未知なものへの憧れと探究。現実の生活からの逃避精神集中と統一ができる。

⑥ 平和・健康・愛、その次に音楽

より人世の大仕事と思っている
来年には更に施設を拡充し、我
が国屈指の物になるはずだ。

⑥ 短い一生だから、自分なりに後
世に残る仕事をしたい。

福岡 康年（喫茶ティラ・オーナー）



① 奇術
② 誰だつて不
思議なもの
に憧れるの
だつた。

③ 約20年

④ アフリカの奥地でやって「魔法
使」と間違われ、観客が「お前
は悪魔だ」と騒ぎ出し、命から
がら逃げた。

⑤ 長くやっている時にはまった
く「いやけ」がさすのですが、ま
あ、全体としてやっているとな
しいから趣味となったのです。

⑥ どんな趣味でも10年やれば人並
みにはなれる。

東仲 一矩（舞踊家）

① 読書

② 幼少の頃より絵本

④ ジュネを読めばそのような気分
になり安吾を読めば彼の人生に
共鳴しセリヌを読めば又なお
かつや処作を同じくする。より
てこの質問には事欠かぬ日常の
生活であります。（本当に！）

⑤ 大変正直に多様な人生の妙味を
経験でき得ることに喜びを感じ
幸福を覚えます。

田原 実（阪神アニメーショングループ）

① 映画とアニメーション

② 川本喜八郎作「花折り」を見て
から。高2の時。

③ 7年

④ 夏の盛中、屋根の上で日光浴を
しながら撮影をしていた（頭が
ボートとしてきて）ころげ落ち
そうになった。

⑤ コツコツ何か形あるものを創っ
ていたい。有形のものは壊れる
定めと知りつつ砂の城を創る：
⑥ EIMC（簡単だと説明されて
もすぐは理解できないよ！）

山本 芳樹（会社員）



① エロスに関
する美術、
文学の鑑賞
と蒐集。

② 性の歓喜と悲哀と神秘性に魅せ
られた。何時か定かではないが
18才位かな！

③ 30年

④ 「エロスに興味がある。エロス
こそエネルギーの根源だ」とい
うとケツタイな人やなど怪訝な
顔をされる。日常の会話ではま
だ正當に通用しないようだ。

⑤ 楽しくて楽しくて仕方がない。
1日が暮れて終わるのが惜しく
て惜しくて仕方がない。今日も
素晴らしい本が入った。生
きている醍醐味はこれからだ。
趣味というより生き様だ。

⑥ 人と人との出会いの不思議、人と
芸術品との出会いの不思議。ま
さに一期一会。

橘 文策（文筆家）

① こけしの蒐集、木地屋（こけし作
者も含め）の歴史・習俗の研究。
② 昭和5年頃から、素朴な美に感
動して。

③ こけしは50年。木地屋は40年。

④ 山深く入らなないと、古い伝統を
持つ木地屋に会えないので連絡
もなく入っていくと日が暮れて
泊まる所もなく困った。

⑤ 研究は（極めて少ない）文献に
よる他は、現地を根よく踏査す
るほかない。歩くことは苦労で
あり、またそこに楽しみもある。

⑥ 道頓堀にあった筒井民芸品店の
老女将に「出た時に買うときな
はれ」といわれた。見付けた時
にはチャンス逃すなという蒐
集の一つのコツだと思つた。

田辺 聖子（作家）



① UFOに関
する情報と
古代文明に
ついての通

俗解説書を集めること。

③ 20年位

④ UFOが見たくて夜空を見過ぎ
てボーボーエンになった。

⑤ とぎれたり続けたりでそれでも
やめられませんか？ くれ縁です。

（到着順）

経済ポケット ジャーナル



★多彩に繰り広げられた
神戸商工会議所
創立一〇〇周年記念行事



は明治十一年十月十四日、神田兵右衛門氏を初代会頭として兵庫商法会議所が設立されて以来、今年で百年を迎えた。これを記念して去る十月十三日に開かれた「記念式典」を中心に各種行事が企画され、いずれも成功裡に終了した。

そのトップをきって「生活文化と未来をひらく企業と市民のひろば」と題して九月十六日から四日間、サンボーホールで開催された「KOB E産業展」では、神戸商工会議所百年の歩みを知らせるとともに、未来の神戸の産業の姿を示し、延べ一万七千人の来館者を数えた。

また「会員講演会シリーズ」として三回の講演会を開催。小松左京氏（作家）、吉本晴彦氏（吉本土建物園社長）、旭堂南陵氏（講師）がそれぞれの分野のテーマで講演。初回の小松氏の講演会は、九月十九日同所会議室において「二十一世紀の経済と文化」と題して開かれ、約二百五十人の経済人が聴講した。



高員盛況だった小松左京氏の講演会

メインイベントといえる「神戸商工会議所創立一〇〇周年記念式典」は、十月十三日、神戸国際会館で開かれ、約二千人の会員、経済人のほか、野中英二通産

政務次官、戸谷松司兵庫県副知事、宮崎辰雄神戸市長、永野重雄日商會頭、佐伯勇大商會頭らが来賓として出席。過去百年における功労者をたたえたあと、外島會頭の「神戸の一層の飛躍をめざし、情報機能の強化、産業の高度化、中堅、



神戸国際会館で開かれた記念式典

中小企業の振興をはかり、試験を踏みこえる決意を新たにしている」との式辞のほか来賓祝辞、佐伯大商會頭の発声で万歳三唱で幕を閉じた。また同式典にて小

★KOB Eオフィスレディ★



片山 実紀さん (24)

＜神戸国際ビジネス学院勤務＞

来春4月に開講する神戸国際ビジネス学院の受付全般を担当。高校時代から食べ歩きが趣味。神戸は世界の味が楽しめるから、まだまだ食べ尽くそうもないらしい。だけどそんなに食べても太らないからいいですね。ところで結婚観とでもいうか、夫婦べったりでなくて、どこかの部分だけが一致していればいい、つまりはある程度自分の世界をしっかりとっている男の人がいいそう。つまりはそんなに私も束縛されたくないなっていうことみたい。＜甲南大学卒＞

十月三十日、その叙幕式が行なわれた。記念碑は高さ九十センチ、幅一・二メートル、厚さ二十センチの白みかげ石製。さらに須磨海浜公園の国民宿舎前に高さ十三・五メートルの船のマスト形をした時計塔を建てる計画があり、これは五十四年一月に完成予定。百周年事業としては他に「神戸ウォーク」「神戸商業まつり」そして日商、大商と共催で「日商一〇〇周年記念展」などが開かれた。



発祥地に建つ記念碑

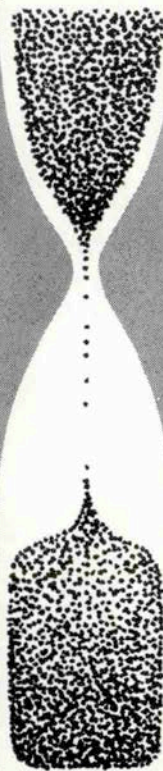
磯良平画伯監修の新所章が披露された。

また同所発祥の地、兵庫区島上町に記念碑を建立。

★キャンペーン

国際文化都市神戸を

考える



生活を原点とした 芸術大学を神戸に

□出席者

服部

正

△大阪社会事業短期大学教授▽

水谷

顕介

△都市・計画・設計研究所長▽

★文化・芸術の総合センターとしての神戸芸大

服部 私には神戸市の二〇〇一年のマスタープランの文化・福祉・医療の部会長をやりましたので、準備の段階から四年ほどマスタープランに関わってきました。その中で神戸市のいろんな都市像を規定しているわけですが、そのひとつに市民文化都市というのがあって、そこで、神戸芸術大学をつくるということがハッキリと書かれています。それをちよつと説明します。

第一が、これまで多くの新しい芸術運動を生み出し、それを全国に広げて行ったという歴史と多くのすぐれた芸術家を育てて来たという実績を神戸市がもっている。文化・芸術についての総合的な教育研究機関としての芸術大学を神戸にぜひつくるべきであるということなんです。

赤根

和生

△美術評論家▽

松本

宏

△洋画家▽

新谷

琇紀

△彫刻家▽

す。第二が、絵画、彫刻、音楽、演劇、舞踊、デザインなどの教育研究、ならびに、これらの芸術作品や文化活動の国際交流、そして、海外に向って開かれた国際情報都市神戸にふさわしい性格をつくる。第三は、それを受けて、文化・芸術に関する総合センターとしての機能をもつ神戸芸術大学を拠点として市民の文化運動を呼び起こし、地元文化への刺激を与える。この三つの項目から成り立っているんです。

マスタープランをつくる過程で、かなり、神戸芸術大学に大きな期待をかけたわけですね。その一番大きな根拠は、ファッション都市だとか何とかいっているけれど、ファッションだけが、カッとするわけじゃなくて、総合的な芸術大学がなければいけないということと、もうひとつは、そのことによって神戸が総合的な芸術文化

センターをもてるということなんです。マスタープランでは、市立の総合的な芸術大学ということですが、神戸市が財団をつくって、間接に経営する学校法人にすることもできますね。

もうひとつ私が考えるのは、芸術大学をもっているたくさんさんの芸術家を神戸に引きつけられるわけですね。地元の芸術家との交流の場ももてるわけです。神戸に根を下ろした大学と研究機関と情報センターが一つになったものをつくるのができたらいいなことだと思います。赤根 全く同感です。私個人にとってはマスタープランが今ここで初めて具体的にになったわけでありがたいことです。ただちよつと引かかることは、言葉尻を捉えるようですが「新しい芸術運動」は果してあったでしょうか。詩、文学には認め得るかもしれませんが、少なくとも視覚芸術の分野では、普及運動としての実績は別として、運動としての「新しさ」は皆無に等しいと思います。なるほど、文明開花いろいろの新しさに先鞭をつけた歴史の実績は誇るべきですが、むしろその面での不毛を直視すべきだと思います。その上に立ってこそ独自の教育理念に基づく芸術教育運動の場としての大学が可能なのではないのでしょうか。一つの起爆力となると思います。まして伝統も生産部門もたない神戸市がファッション都市を名のる以上、ファッション大学など、ジャーナリスティックな企画を単発的にやってお茶をにごすのではなく、遅ればせながらもせめて芸術大学はぜひつくるべきです。芸術の根のないところにはびこるファッションなどは根なし草の仇花にすぎません。

実は先年、ファッション都市提言以前、本誌が「芸術大学を」の題名のもとに開いた座談会の席上「すでに市立の外国語大学があるのだから、ここの芸術学部を併設して総合的な芸術大学に」という提案をしたのですが、世界の美術がコンセプチュアルな傾向を強めている現代では、作家が自作についてことばによって説明を必要とする面もあるわけですよ。外国の作家とわたり合うぐら

いの語学力をもつべきです。外国語大学が語学の虫を育てるだけではない巾と厚みを加えることになると思っただけなんです……。

服部さんのご発言のなかには研究と情報は出てくるんですが、学問という語がないことに不満が残ります。大学である以上、学問の府としての充実度が要求されます。それに神戸市はほかに須磨の離宮公園の野外彫刻展の成果という十年を超える実績もあるし、この際ぜひ市立で建学してほしいですね。漠然としてではなく、はっきりと専門に設立準備委員会の構成から進めてほしい。

水谷 僕も神戸に芸術大学があるべきだと思うし、必要性は非常に高いと思うんですが、今、パタパタとつくことはマイナスが多いですね。本当にいろんな衆知を集めて、しっかりしたリーダーシップをもって、ものをつくって行くという態勢は神戸にはないと思う。そういう段階ではつくらない方がいい。そういう意味で、芸術大学をつくらなくちゃいけないという運動、みんなの力を結集して行く必要は大いにあるけれども、あわててつくるべきではない。

むしろ、今、必要なことは、兵庫県にも神戸市にも芸術高校ひとつすらないのですから、神戸も兵庫県も本来の意味での地域文化をつくる条件には欠けていると思うんです。そういう意味で、まず、芸術大学の前に神戸市立芸術高校をつくったらどうかという気がするんですね。これは県立でもいいです。各地域に一つずつ地場産業を背景にして、職能に生きるという人たちをつくる芸術高校をまずつくって、それから次は芸術大学という段階でもいいんじゃないかと思っています。

松本 基本的には芸術大学はあっていいものだし、つくべきだと思いますが、つくる場合には、神戸あるいは兵庫県の地域産業とか文化に還元できる、そういうものであれば、市とか県のバックアップがあるし、そういうメリットがないとダメだと思いますね。

★まず、アルチザンの専門学校が必要だ

服部 神戸市は、今、芸術文化センターを構想中です。

これは、おそらく日本最大といつていいものができそうです。市民がそこでアトリエも借りられますし、コーラスの練習もできるし、プロ養成のものをつくるわけですから、芸術大学構想の中に、そういう芸術文化センターとのからみをもって考えるチャンスではあると思う。



服部 正さん

新谷 時機は熟して来ているように思います。今まで神戸に何らかの形の芸術大学のようなものがなければいけなかったんですよ。芸術大学ができると聞けばうれいんですね。しかし、いきなり今、芸術大学をポンとつくることを考えるより、すべてものには順序があるように、



水谷 頤介さん

神戸のローカルティーにふさわしい、いろいろなジャンルの専門の学校をたくさんつくり、いろいろなトライアルを経て、グレードアップされたあとに、しかるべき総合芸術大学をつくって行くことを考えたいですね。しかし、別に「芸術大学」という総合的なものでなくて、そ

れぞれのジャンルの専門大学でもいいと思う。むしろ、専門の学校の方が間口が狭くて奥深いからいいかも知れませんね。芸術大学をつくる前に工芸高校のようなものは欲しいね。我々ものつくり屋——芸術家や職人にとつてまず欠くことのできないものは技術です。アルチザン（職人）を養成しその正しい技術をしっかりと学ぶことができるような中学校、高等学校や技術専門学校が神戸にないといけない。他都市には芸術大学とか美術大学があるから神戸にもそんな名前の大学が欲しいという発想ではないと思うが。アルチザンを養成する専門の技術学校をつくるのがまず先決ではないでしょうか。そうすれば素晴らしいアーティストもぞくぞく誕生するはずですよ。

松本 大学以前のアルチザンの養成ですが、大学といったって、たとえば、芸術大学のイメージをそこで変えればいいのであって、そういうものを養成する、そういうものを一緒につくれる大学を建てればいいわけですよ。もっと研究的な職人的な雰囲気を感じ込んだカリキュラムを考えればそれで生きて来るわけですね。

赤根 先ほどからアルチザンということばしきりに出ていますが、もともとアルチザンを含まないアーティストは存在しないはずなのですが、戦後の美術界に許された無秩序な自由のなかではその姿勢が崩れてきている。徹底した技術の確立のうえで、しかも、美術教育に技術教育に偏らず、理論面の裏づけに支えられた独自の創造教育が必要です。設備も完璧を期したいし、芸術大学ができては駄目大学ではしょうがない。

水谷 中途半端な芸術大学をつくることほどつまらないことはない。

新谷 そういう芸術大学を神戸にいったんつくったら、ちよつとオーバーな表現かも知れないが、世界で通用するシビアーなものでないといかんということですよ。

★具体的な芸大設立の運動を始めよう

赤根 新しいものをつくるためには伝統や固有の組織を



新谷 琇紀さん

服部 新しい芸術大学は、思い切って開かれた、つまり、大学令による大学のギリギリまで開かれた大学であっていいと思うわけです。芸術文化センターというハードなものをまずつくって、フアッションから何かみんな含めてそこで勉強するということ、それに対して情



松本 宏さん

壊すだけの力がなければならぬ。そのための抵抗体として「なにもない」というその不毛の認識こそ肝要です。京都市芸大は伝統から自然発生的に生れたとすれば、商業都市大阪がその文化的不毛を抵抗体とし、大阪芸大はそのレールに乗ったといえるでしょう。



赤根 和生さん

報の提供が徹底的に行われる。もし工芸高校をつくるなら、それは今の高校のアイデアでつくったら絶対にダメだと思います。

赤根 塾をつくることですね、塾を。

これについてはあの大学紛争の直後、神戸芸術学林というのができ、理論面でわたしも参加していたのですが、その後その科目がいわゆる足切で中止、退いたわけです。神戸というところは芽生えてもとかく長つづきしない。この運動だけは民間からしつこく続けていってほしい。

新谷 いきなり芸術大学というシステムよりも、私はアート・インスティテュートとかアカデミーというシステムの方が今議論している芸術大学構想のイメージや内容にふさわしいと思います……。

県下、市内にはたくさん彫刻が設置されているのに残念に思うことは神戸市にも兵庫県にも公立の彫刻の学校あるいは研究所が一つもないことです。市立、県立美術館に附属してまず彫刻の研究室のなものでもいいから、趣味の域から脱した彫刻を本格的に研究できる専門の機関が要りますよ。

松本 芸術大学の性格をマンツーマンの授業と置きかえれば、我々だって教官じゃないわけね、ある意味では。

講義を受けて知識の伝達じゃないわけでしょう。一緒にものをつくり、考え、そういうプロセスの中で授業というものが形になるわけでしょう。そういう小さいマンツーマンの集積が集まるような大学は、かなりいろんな知恵を借りて煮つめて行けば不可能じゃないと思う。本当に神戸なり兵庫県なりに必要であれば、必要だと思いますが、我々も仕事をしたいしね、仕事をする場がそういう大学ならね、だから、急いでどうのこうのじゃなくて、今、時期的にはこういう話がポツポツ出て来て、もつとシビアになって、設立の準備機関ができて、もつと具体的に動いて行っている。それには、やっぱり、県とか市の財政ですね。イメージづくりと同時に行政的にもつと具体的に金をどうするとか敷地をどうするとか、そ

んなことをできるだけ早くやらないと。もつと小さなものから身近かなところが実験的にもう出発していい。

新谷 優秀なアルチザンの養成なのか、アーティストをつくるためのなか明確にして学校のつくり方を研究する

★福祉や生活と一体化した芸大を神戸に

水谷 神戸はいの意味で実験都市だといっているわけだけど、固定的にこういう形で芸術大学をつくりますよと決める前に、芸術大学運動みたいな形で、どこかの古い校舎でもいいからそういうスペースを借りて、そこで、実験芸術大学みたいな形でいろいろやってみてもいいのじゃないかという気がしますね。ただ、そういうことの繰り返しで、本当に世界に勝負できる芸術ができるかどうかは別問題です。

服部 ビラミッドのてっぺんは芸術大学であって、その基礎が芸術文化センター、市民参加の場所である。

松本 アルチザンには理屈でないものすごい苦しみと喜びとがあるんですよ。お互いにも感じ合える場が芸術大学をつくるまず最初の原点でね、そこからいろんなことが出て来るのじゃないですか。ただ、すべてがパブリックで市民に開放し、全体のレベルを上げることだけじゃなく、一方で密室的なマンツーマンで作業のできる場がないといかんわけですね。アルチザンの優秀なものをつくるわけでしょう。一般市民をシャットアウトして密室でやる作業も一方で非常に必要ですね。

新谷 たとえば靴のアカデミー（大学）なんかをつくって欲しいですね。神戸の町ならではのアカデミーだと思う。地場産業の発展に一役も二役も、一石二鳥かな……。もしそうなれば、これこそファッション都市神戸のアルパ（夜明け）を意味しますよ。靴の大学といっても靴のつくり方を学ばだけだと思うと大間違い。絵画、彫刻そしてデザインも入っているし、いわゆる美術学校プラスアルファ的な学校なんです。人間にとっては足はものすごく大事なんです。また、足に靴がピッタリフィットす

るということは勝敗を左右するぐらいといいますから、人類が二本足で歩いている限り足と靴というかハキモノとの関係はもつと大切に考えなければいけないと思いますね。芸術大学をつくる一つの取っかかりとしてケミカルシューズを例に挙げてお話をしているわけです。

赤根 大学が世界ではじめてできたのはボローニアで、

その頃は、いわゆる笈を負うてその師のところに集まり、学生が金を出し合って教師を備ったという形になっていたわけですが、パリを凌ぐファッションの中心フィレンツェはルネッサンス発生の地としての遺物に溢れ、もちろんアカデミーがあり、派生的に靴ほかの勝れた皮革製品で有名だし、男性ファッションの中心としてのミラノはその源流に古代ローマ以来、中世、ルネッサンスの遺産、そして未来派発生の地としての誇りがその源流にあつてこそなのでしょう。アルチザンシップを叩きこむことによって、戦後の教育に無視されてきた徳育の面も強調できるし……。とも角、教えられるのではなく、自ら学びとるという主体性に根ざすべきです。

松本 原点が欲しいですね。

服部 福祉はトイレット・トレーニングに始まってトイレット・トレーニングに終るんです。赤ちゃんのおむつの世話に始まって、年を取ってからのおむつの世話。トイレット・トレーニングは福祉の一番大事な仕事なんです。そこから始めて学問的な体系はあとからできて来る。芸術だってそれとよく似ている。生々しい人間的な原点をさがしているわけですね。

水谷 今までの日本の芸術大学は、福祉とか生活とかけ離れていたわけですよ。そういうものを一体にした学校をつくりたいですね。

赤根 障害者と一緒に聾啞者への進学には積極的に道を開くべきだし、純粹美術は別として、デザインが芸術とみなされるようになった今世紀には、産学共同の姿勢をはじめから打ち出すことも考えられるし、とも角、開かれた大学であってほしいですね。（ブランドウブランにて）

田崎真珠株式会社

取締役社長 田崎 俊作
神戸市葺合区旗塚通 6-3-10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル株式会社

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

カネボウベルエイシー株式会社

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目17-4
センタープラザ東館 8F
TEL (078) 392-2101

株式会社ペニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 332-3155

モロゾフ株式会社

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入船株式会社

取締役社長 小泉 進吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル 3F
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の
企画は以上6社の提供によるものです。